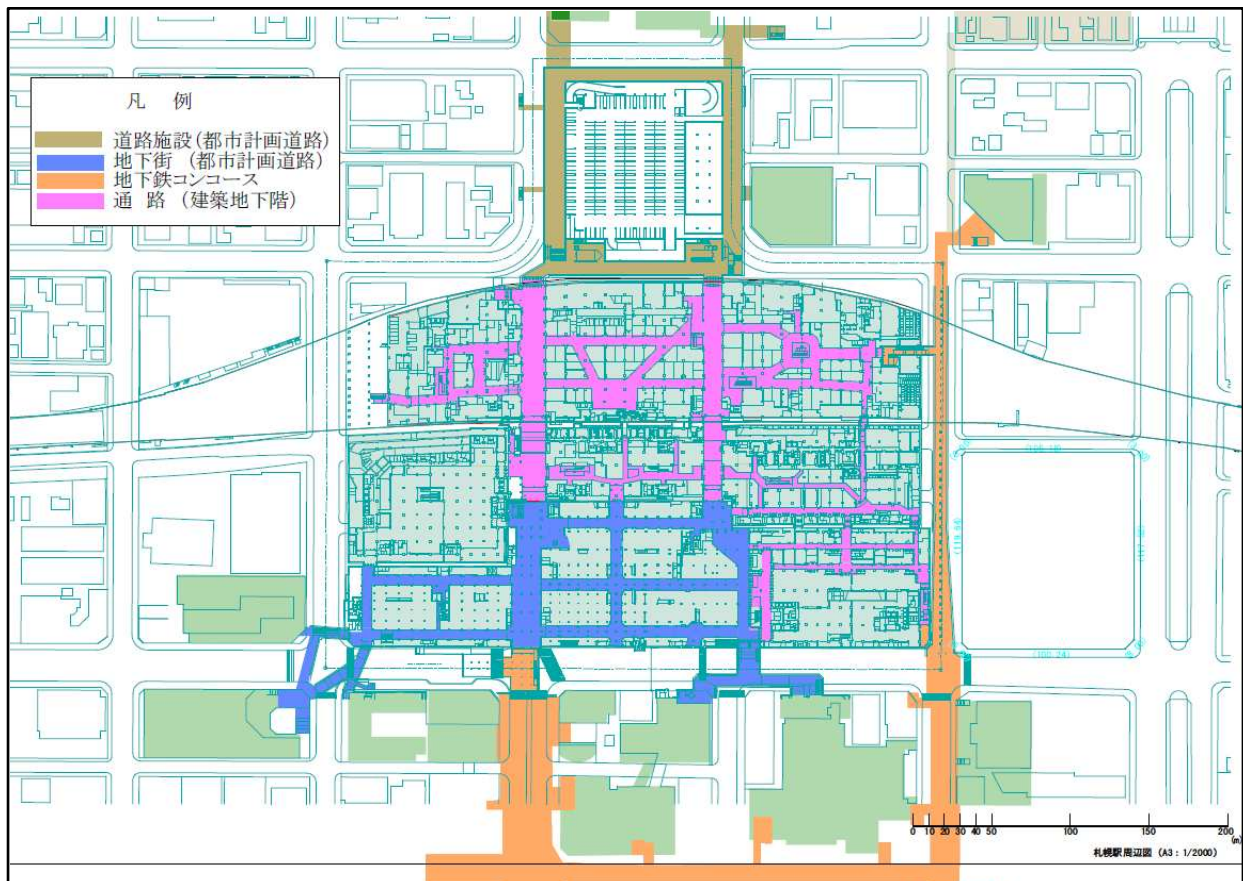


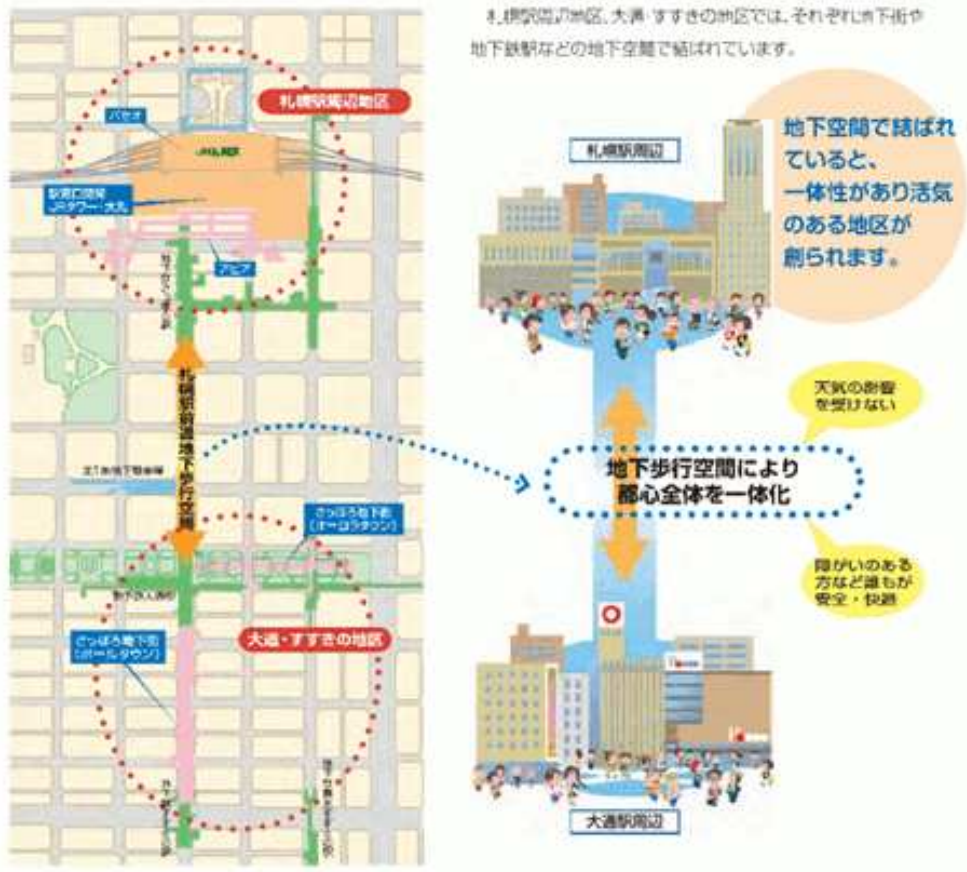
札幌駅周辺交通課題図（再掲）



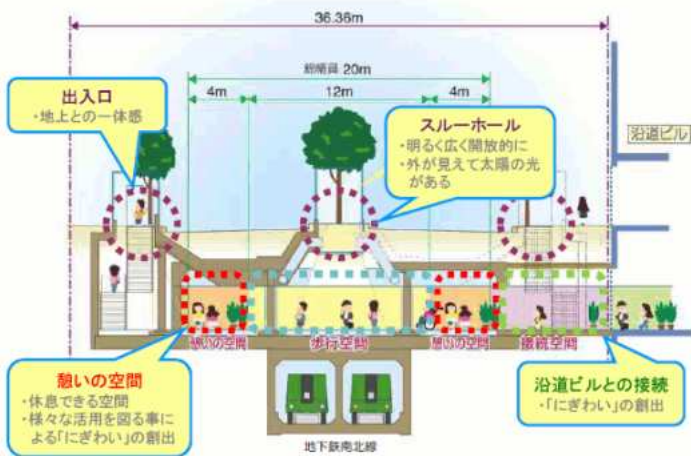
地下通路ネットワーク現況図

■事業概要

- 区 間 地下鉄南北線さっぽろ駅から大通駅
- 延 長 約520m（うち国道区間は約160m）
- 幅 員 20m（歩行空間12m + 憩いの空間4m×2）
- 事業期間 平成17年度から平成22年度まで（地下部）
平成23年度まで（地上部、予定）
- 供用開始 平成23年3月12日（土）



【断 面】



札幌駅前通地下歩行空間事業概要

2) 基本的な考え方

既述したとおり、札幌駅交流拠点においては、北海道および札幌市の活性化を牽引し、札幌の都心全体の底上げと均衡ある発展を目指すために、道内最大の交通結節点としての役割を踏まえた新たな都市機能を誘導し集積していくことが必要である。

一方、交通の観点からは、市民や市外からの来訪者のみならず、道外さらには国外から訪れる人々にとっても交通の要衝であることから、高齢者などの移動制約者や地理に不案内な人への対応はもちろんのこと、**北海道の「PR・インフォメーション拠点」**を形成するなど、国際的な観点からも様々な機能向上を図る必要がある。

そして、国外・道外・市外から札幌へ至る広域交通について、**空港・港湾や他都市とのリンケージをより一層高めるためのアクセス機能強化**や、今後、期待される北海道新幹線や路面電車の延伸、自動車交通の都心アクセス強化など、北海道・札幌の玄関口として、交通結節点機能はますます重要になってくる。

このようなことから、北5西1街区及び北5西2街区の**土地利用と併せた、既存の交通課題を含めた交通結節機能の再編**について、検討を進めていくことが必要である。

以上を踏まえ、国際色豊かで多様な人々が行き交う“北海道・札幌の玄関口としての「交通結節点」の形成”に向けた取組として、次のような方針を設定する。

- ① 空港・港湾・他都市との広域的なアクセス機能の強化
- ② 多彩な交通モードを結びつける交通結節機能の向上
- ③ 分かりやすいサイン等の整備・情報発信機能の充実

3) 具体的な取組イメージ

① 空港・港湾・他都市との広域的なアクセス機能の強化

(中長期的な取組)

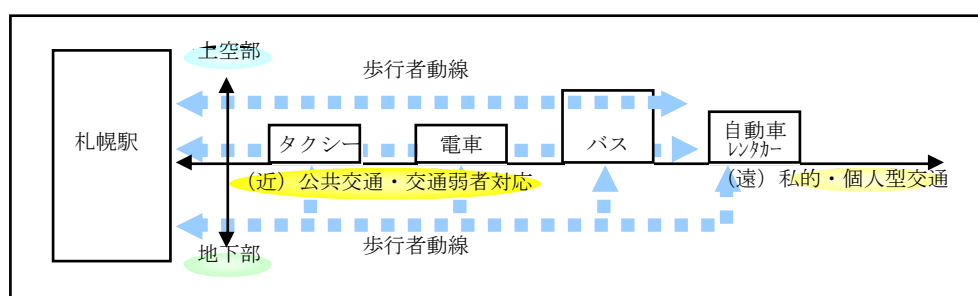
- ・道外、国外からの窓口となる新千歳空港や小樽港などとの連携向上を図るため、自動車高速ネットワークとのアクセス強化を目指す。ただし、広域的な交通を受け持つ高速ネットワークの考え方については、札幌駅周辺のみならず道央都市圏の核となる札幌都心部全体の観点から、そのあり方、整備方針を検討していくことが必要である。
- ・四季を通じて安定的な交通ネットワークを提供するためにも、国内主要都市と短時間でアクセス可能な大量輸送機関である新幹線の札幌延伸は不可欠である。このため、土地利用の際には、新幹線の整備時期、規模などが明らかとなった場合にでも柔軟に対応できる施設計画としていくことが必要である。

② 多彩な交通モードを結びつける交通結節機能の向上

(短期的な取組)

- ・土地利用に併せて、交通結節機能の再編に向けた交通施設配置の基本的な考え方や方針について検討する。

例) 各交通施設は駅を中心として水平方向に「(近)公共・弱者→(遠)個人」といった配置にするとともに、上空部または地下部を活用することによって、四季を通じた円滑な歩行者動線を確保する。



- ・ JR、地下鉄、バス共通に利用できる ICカードの導入を図る。

(中長期的な取組)

- ・土地利用や上位計画での位置づけ、駅利用者のニーズ・特性に応じて、交通施設配置を再検討し、高齢者や観光客などにも利用しやすいように移動サービスの公平性を確保する。
- ・「環境首都・札幌」を実現する路面電車の延伸および導入空間について検討を行う。
- ・観光支援のための観光バス待機スペースやレンタカーサービスの集約といった

観光客の利便性に応じた機能導入を検討する。

- ・地下歩行空間の整備により連携強化が図られた大通・すすきの方面に加え、札幌駅北口方面や創成川以東地区方面を含めて、札幌駅から各方面への歩行者動線の機能強化を図る。

③ 分かりやすいサイン等の整備・情報発信機能の充実

海外や国内から多くの人を訪れる札幌駅交流拠点においては、ここを起点に札幌都心や道内各地へ送客することが北海道全体の活性化につながることから、北海道の玄関口・案内窓口としての機能が重要である。

(短期的な取り組み)

- ・外国語表記、ユニバーサルなサイン表記などにより、誰もが理解でき、安心して移動できるサイン等の整備および情報の提供を行う。
- ・(再掲)札幌を訪れる外国人や道内外の来訪客に対して、誰もがわかりやすい観光インフォメーション機能の充実を含め、北海道の環境、食、観光、歴史、文化、産業等、北海道の良さ、奥行きを深く理解、共感してもらうための「PR・インフォメーション拠点」を形成する。

Ⅲ－２ 街区再整備の基本的考え方

札幌駅交流拠点の再整備にあたっては、「世界都市さっぽろ」としての都市の成長戦略を踏まえた上で、将来のあるべき望ましい姿を展望し、その実現に向けたプログラムを組み立てていくことが必要である。

1) 基本（現状）認識

札幌駅交流拠点の再整備に向けた主要街区

- 北5西1街区（青空駐車場）
- 北5西2街区（商業施設・宿泊施設・バスターミナル等）
- J R札幌駅および南北駅前広場

【北5西1街区】

- ・経緯
 - H15.3 北側用地を国鉄清算事業団より取得
 - H16.3 南側用地を劇場用地として日本通運より取得
 - H22.2 道が北海道劇場の建設を断念
- ・当初の用地取得から10年近く経過する中で、土地利用については紆余曲折もあり、公共駐輪場及び青空駐車場として暫定利用
- ・駅前の一等地にふさわしい土地の有効活用が早急に求められる街区

【北5西2街区】

- ・バスターミナル施設、商業施設として土地利用（竣工昭和53(1978)年）

【駅前広場】

- ・北は「交通広場」、南は「人の広場」として位置づけられ整備
- ・「人の広場」である南口広場は、都心のパブリックライフの起点
- ・南口広場のタクシープールは、変則交差点として整備したため、タクシー専用の信号現示を設けており、北5条手稲通の青時間比が低い

【その他街区】

北4西3街区

- ・街区の一体的な再編に向けた地元の検討会が開催
- ・旧西武百貨店（ロフト館含む）は、ヨドバシカメラが取得、建物は解体工事中（検討会への参加は不透明）

北5東1街区

- ・民間レンタカーのほか、青空駐車場及び立体駐車場として利用

2) 基本的な考え方

札幌駅交流拠点における街区再整備にあたっての基本的な考え方について、Ⅲ－1で示した4つの視点による“具体的な取組イメージ”から、下記のとおり整理する。

【魅力ある都市の風景づくり】

- ・札幌駅南口街区（北5西1～北5西4街区）全体を一体として捉え、象徴的な都市景観を形成
- ・札幌の“顔”である南口広場（北5西3-北5西4街区）は、人々の交流を活性化させる設え等、パブリックライフの起点としての機能を充実・強化
- ・創成川以東地区へのまちづくり連鎖・都心活性化等に向け、北5西1街区と北5西2街区との連携・協調により“新たな顔”を形成

【土地利用と交通施設の一体的再編】

- ・早急な土地の有効活用が求められている北5西1街区を中心に、北5西2街区と連携・協調しながら、立地特性に応じた機能導入を図る等、土地のポテンシャルを最大限に発揮する街区再整備を推進
- ・土地利用と併せ、北海道新幹線・路面電車の延伸、都心アクセスの強化等による交通環境変化および既存交通課題への対応に向け、交通結節機能を再編

【「環境首都・札幌」への取組】

- ・南口広場を中心に北海道・札幌らしい緑豊かな交流空間を形成
- ・既存の地域熱供給、雪氷冷熱利用等の取組をベースに、北海道の自然・再生可能エネルギーの積極的な活用等、環境低負荷型都市づくりに向けた先進的な機能導入を図り、「環境首都・札幌」を象徴的に表現

【周辺プロジェクトとの連携】

- ・周辺プロジェクト（北8西1再開発、札幌卸センター再整備、将来的な北5東1地区を始めとする創成川以東の開発等）との機能連携・歩行者ネットワーク形成等を推進

これら基本的な考え方を踏まえ、将来の街区再整備に向けた方針を次のように設定する。

- ① 北5西1-北5西2街区の“新たな顔”の形成と周辺街区の段階的再整備
- ② 既存の“顔”である南口広場の充実・強化
- ③ 街区再整備にあわせた交通結節機能の再編
- ④ 「環境首都・札幌」の顔づくりの推進

3) 具体的な取組イメージ

① 北5西1-北5西2街区の“新たな顔”の形成と周辺街区の段階的再整備

- 北5西1街区と北5西2街区は、市街地再開発事業などの適用を検討し、一体的な再整備により土地の高度利用を図る。
 - なお、一体的再整備の方法は、以下のパターンが想定される。
 - ・ 事業として一体ではあるが街区は個別利用
 - ・ 事業としても街区としても一体
- 北5西1-北5西2街区の再整備にあたっては、北5西1街区のポテンシャルを最大限に発揮するとともに新たな産業創造・人材育成を支えるための、商業・業務、宿泊、アミューズメント等の高次都市機能の導入を検討するほか、新幹線が延伸した際のインパクトをより高めるため、北5西1街区側に新幹線連絡口の設置を検討するなど、札幌駅の“新たな顔”の形成を図る。
- 北5西1-北5西2街区再整備や既に動きのある北8西1再開発、札幌卸センター再整備などを起爆剤として、北5東1街区などの周辺街区について、これら事業と呼応する連鎖的・段階的な再整備の誘発を促していく。
- 都心まちづくりの重点地区である創成川以東地区や周辺街区と、歩行者動線、協調的なパブリック空間、オープンスペースなどのネットワーク形成を図っていく。

② 札幌の“顔”である南口広場の充実・強化

- 札幌の“顔”である南口広場は、北5西1-北5西2街区の再整備と併せ、人々の交流を活性化する設えや北海道・札幌らしさを感じられる緑豊かな空間を創造するなど、パブリックライフの起点としての機能の充実・強化を図る。
- 南口広場と駅前通との交点では、南口広場と呼応したオープンスペースの確保などを図り、大通・すすきの方面へのつながりを意識した空間形成を図る。
- 南口街区全体で魅力あるシンボリックな都市景観を形成するため、建物の景観ラインの形成を検討し、南口広場から創成川以東地区への空間の連続性創出や、北5条通沿道の周囲への圧迫感軽減などを図っていく。

③ 街区再整備にあわせた交通結節機能の再編

- 北5西1-北5西2街区の再整備に併せて、北海道新幹線・路面電車などの新たな交通モードや創成川通の都心アクセス強化などによる交通環境の変化および、既存の交通課題などへの対応に向け、北5西1～北5西4街区までの南口街区全体で交通結節機能の再編・再整備を図る。

④ 「環境首都・札幌」の顔づくりの推進

- 北海道の自然や太陽光など、再生可能エネルギーの積極的な活用を図る。
- 街区再整備に併せ、スマートエネルギーネットワークの形成・活用に向けた検討を行うなど、環境低負荷型都市づくりに向けた先進的な取組を進める。